

平成 26(2014)年 8 月 6 日

プロジェクト報告書

団体名 社会福祉法人デンマーク牧場福祉会

自立援助ホームこどもの家

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

自立援助ホーム支援助成

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

私たちのホームはデンマーク牧場の中にあり、「力を合わせて働くことを通して生きる喜びを分かち合うこと」を大きな目標にしています。酪農作業をするなかで、新たに素牛(もとうし)を購入し、牛を育てることを通して子どもたち自身の生きる力を養いたいと考えます。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

デンマーク牧場の豊かな自然に囲まれ、牛、羊、鶏、馬、山羊などの家畜をはじめ、様々な生き物に囲まれながら生活しています。畑を耕し、野菜を育て、家畜の世話をし、命の大切さを体験しています。食べることのありがたみを体験することは、生きる原点だと考えています。新たに素牛を導入し、大人と子どもが力を合わせて世話をする作業を通して、身体と心を育てていきたいと思えます。現在いる和牛の雌 2 頭は、高齢で受胎が困難な状態になっているため、新たな素牛の導入が必要な時期になっています。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

安く素牛(雌仔牛)を導入するために、月に一回の競り市にて購入することにしました。5 月、6 月は競り市での素牛価格が高騰していたため、7 月での競り市にて比較的安く購入しました。素牛を導入してからは、子どもと一緒に名前をつけ、大切に育てています。餌やりや糞尿掃除、人に慣れさせるための運動を兼ねた散歩は、子どもたちの心を育てています。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

自立援助ホームこどもの家は、自立を目指す青年期の子どもが生活している「家」です。ホームは、様々な苦難を味わってきた末に辿り着いた場所でもあります。大人や社会に対する信頼を回復することは並大抵のことではありません。幸いにも、私たちのホームは牧場の中にあり、家畜をはじめとした多くの命に囲まれた生活をしています。新しく仲間となる素牛を迎え入れ、皆で名前をつけました。子どもたちは、仔牛の成長を楽しみながら、日々の飼育作業を通して、子どもたちもまた心身共にたくましく成長することを願っています。このたびは、助成をいただき誠にありがとうございました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし